

## ハルビン通信その2

ハルビン師範大学 菊池 実

### 深刻な大気汚染

4月に入って、ハルビンもようやく春を迎え、温かさが感じられるようになりました。日中の最高気温は15度前後、それまでの-25度、-20度の世界からようやく脱しました。松花江の氷も融けました。それともなつて青空を回復、PM2.5の数値もかなり低くなってきました。なにしろ12月中のPM2.5の数値は最高で1000、連日250~500の間、スモッグに覆われて青空を見ることなぞ望めませんでした。健康に影響のおそれがあるといわれている数値は大人で1日平均70ですから、たまったものではありません。日本では北京の大気汚染問題が報道されていますが、東北部の汚染も非常に深刻です。



大学西門から構内へ

### 85%が女子学生

2月27日から後期の授業が始まりました。わたくしが勤務するハルビン師範大学は黒龍江省内の大学中で、キャンパスの広さ（江南と江北の二つのキャンパス、わたくしの住んでいる江北のキャンパスが広大）、学生数で一番です。約3万9000名（江



北のキャンパスにはそのうちの約3万名)の学生が文系と理系あわせて25の学部で学んでいますが、なんとそのうちの85パーセントは女子学生なのです。キャンパスは女子大の雰囲気そのものです。ハルビンの学生間ではこんな言葉があります。

「学在工大，玩在黑大，吃在农大，爱在师大」

（勉強するならハルビン工業大学、遊ぶなら黒龍江大学、食事するなら東北農業大学、愛を語るならハルビン師範大学）

### 重視されている日本語教育

わたくしが所属している東語学院（日本流に言えば東語学部）は、三つの学科に分かれています。日本語学科、朝鮮語学科、アラビア語学科です。現在、日本語学科には1年生から4年生まで486名（以前は600名）が在籍、それに対して朝鮮語学科155名、アラビア語学科110名です。大学院が設置されているのは日本語学科だけ、その重要性がわかります。学院の院長と副院長2名はいずれも日本語学科出身の女性、教員数で見ても日本語学科28名と他学科を圧倒、いずれの先生も日本の大学留学や国際交流員として日本での勤務経験がありま

す。なかでも二人の先生は高校卒業時から日本へ行き、まず語学学校で日本語を学び、その後日本の大学、大学院へと進学、そして一橋大学、大阪市立大学からそれぞれ博士学位を取得されています。外国籍教師はわたくしを含めて日本人 2 名、韓国人 4 名、アラブ圏の 2 名の計 8 名です。ちなみに、この他の語学関係の学部には、西語学院(英語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語)、スラブ語学院(ロシア語、ポーランド語)の各学科があります。わたくしが住んでいる江北宿舎には、フランス人、ロシア人、ポーランド人、韓国人、ウルグアイ人、以前にはアメリカ人もいました。あいさつは基本的には中国語ですが、時には英語、日本語、ポーランド語などで行ったりもしています。

## 日本の歴史への関心はいまひとつ

今学期、学部 2 年生の日本歴史、3 年生の日本の新聞雑誌の講読と高級(上級)会話、4 年生の卒論などを担当しています。この中で少々苦勞、否、大変苦勞しているのが日本歴史の授業です。日本のアニメ・漫画には大変興味を持っている学生たちですが、歴史への関心はいまひとつ。授業は試行錯誤の連続です。そこで授業の合間に日本のテレビドラマ・アニメの歴史をたどるとして、わたくしの小学校時代から大学時代までのドラマの映像と主題歌を聞かせたりもしています。「月光仮面」からはじまり、先日は「巨人の星」を見せました。新聞雑誌の講読は、冬休みの一時帰国時に「朝日」「毎日」「赤旗」等の記事の中から、学生の関心のありそうな記事を準備、それらを学生に読み込ませ、また授業前には最新のテレビニュースを視聴させています。アニメやニュースなどは You Tube の動画を USB メモリーに保存、教室備え付けのパソコン・プロジェクターを使用しています。中国国内では You Tube に限らず Google な

ども基本的には閲覧できません。でも抜け道はあります。しかし最近ネット規制が一段と強まってきています。



時計台のある大学本部の行知楼(写真奥)と西語楼(手前の建物)

## 南京大虐殺や 731 部隊を教材に

先学期は、3 年生の近現代文学史・高級会話・写作、大学院の授業(日本文化論)も担当しました。教えて楽しかったのは大学院生で、様々な課題を与えて発表させました。南京大虐殺の世界記憶遺産と世界遺産への取り組みを強めているハルビン郊外の平房にある満洲第 731 部隊の遺跡とその罪証陳列館展示についても発表させました。前者の発表は、湖北第二師範学院出身の学生に、後者は師範大学卒業後に 731 陳列館の解説員として勤務した経験のある学生を指名して発表させました。二人とも力のこもった発表を、そして日中の歴史認識問題について考えていきました。

## 学生たちに癒されて

中国の学生の多くはまじめで、与えられた課題には一生懸命に取り組みます。その姿は涙ぐましいほどですが、そこから一步脱して自ら課題を求め深めていくことは少々苦手なようです。教師に対する尊敬の眼差しにあふれる一方、教師と学生の間の垣根は日本の学生のそれとは異なりだいぶ低いです。そんな学生たちに癒されながら、3 年目のハルビンでの生活を送っています。